

I 目的

大分県の校内研究・校内研修について、現状を把握するとともに実践事例を収集し、「手引書」の改訂に向けた方向性を探ることを通して、大分県の更なる校内研究・校内研修の推進に資する。

II 結果

※1年次は校内研究・校内研修に関する大分県の実態を把握するため、小学校・中学校・高等学校を対象にアンケート調査を行った。

○手引書の認知度と提唱する実践に関する結果

・認知度は60%を超えているものの、活用度は19%であったが、「研究仮説の必要性」に関しては、「必要である」と回答した割合が、大幅に減少したことから、手引書が提唱する仮説検証型にこだわらない校内研究の考え方が広がっていると考えられる。また、手引書が提唱する実践については、「少人数チームの編成」は77%の学校で行われている一方で、「学校課題に応じた研究期間の設定」をしている学校は30%である。

○校内研究・校内研修のテーマ設定に関する結果

・95%の学校が設定している。そのうち、テーマ設定に影響している要因として、93%の学校が「学校教育目標」を、87%が「昨年度までの研究成果や研究関心の継続」を、85%が「現在、直面している学校課題」を挙げている。その他にも学校内外の要因がさまざまに影響している。

○校内研究・校内研修における基本的心理欲求充足に関する結果

・手引書を活用した実践や校内研究・校内研修の各種成果の期待をすることは、基本的心理欲求がおおむね充足される傾向にあると考えられる。

○校内研究・校内研修に予想される結果

・予想される課題では、「時間の設定・確保」や「研究成果の積み上げ」を挙げている学校の割合が比較的多く、新たな手引書に事例等を載せる必要性が示唆される。

○事例校調査について

・視察した学校では、研究者が提唱する「教師の自律的な学びを支える関係性の構築」や「学校共創ビジョン」が体现されていた。

III まとめ

●成果と課題

成果：①手引書の活用状況の把握 ②手引書の取組と校内研究・校内研修における基本的心理欲求充足への関連 ③学校の自律的なテーマ設定
④校内研究・校内研修における課題（時間の設定・確保、成果の積み上げ、組織的取組）⑤新たな手引書の方向性

課題：県内の事例収集

●次年度研究の要点

① インタビュー調査等を通じた実践事例の収集

② 手引書の改訂にむけて、組織的な学校課題の解決に寄与できる掲載内容の確定

1.校内研究・校内研修の時間確保に向けた組織的取り組み

2.学校課題の焦点化に向けたICT活用

3.校内研修の短時間化の手立てと推奨時期

4.新しい事例校

上記2点を踏まえた新たな手引書を作成することで、大分県の更なる校内研究・校内研修の推進に資する。

